

史実知るきっかけに

北浜のビルにレリーフ

伊藤、板垣ら参加 明治8年「大阪会議」



人物を円形に並べたレリーフのイメージ作りを行う山根さんの会社のスタッフ

日本の近代政治への転換点となった明治8年の「大阪会議」を知ってほしいと、会議の舞台となった大阪・北浜のビル側「歴史が動き、今の民主

明治の偉人たちのレリーフが掲げられるのは、会議の舞台となった料亭「花外楼」に隣接する細いビル。土佐堀通りに面した8階建てで、もとは花外楼の事務所棟。2年前に不動産業を営む山根さんが購入し、現在、山根さんが経営する会社の事務所のほか、バーや輸入雑貨業のオフィスが入居している。

レリーフは樹脂製で、縦2段、横2段の正方形内に、大久保利通、伊藤博文、板垣退助、木戸孝允、井上馨の5人の顔が円形に並ぶ。ビル2階側面に設置する。

5人は明治維新の立役者だが、「征韓論」などをめぐって分裂。大久保に反発した板垣、木戸は新政府を離れた。

このことを案じた井上と伊藤が仲介役となり開かれたのが、明治8年の「大阪会議」。この会議

で、元老院、大審院、地方官会議などの設置が合意され、三権分立の体制をとり立憲政体を樹立する方針が決まった。

当初、レリーフは銅板で考えられたが高額であったため、立休看板を作る業者に頼み、樹脂製の立体的なレリーフを作ることにしたという。現在、国立国会図書館に所蔵されている5人の写真を基に作製中。3月1日午前10時から除幕式を行う。山根さんは「ビルの前を通る人の目にとまるはず。レリーフが奥深い史実を知るきっかけになってほしい」と話す。

阪市内

ニュースは

社会部大阪総局
TEL:06(6633)9734
FAX:06(6633)9738

北摂支局
TEL:06(6852)1651